



## 「三和小の運動会」



「運動会」というのは、もとはヨーロッパからその元となるものが伝わってきたようです。1800年代後半、明治の世に海軍兵学校で行われた記録が残っています。当時は「富国強兵」が叫ばれた時代の中で、軍隊強化が目的であったようです。その後、太平洋戦争を経て、現在の運動会に近いものが出来上がっていきます。赤白帽をかぶって紅白で対抗戦をするのは、大昔の源平の合戦に由来するそうです。

その後運動会は、だんだんと学校だけの行事でおさまらず、地域住民も参加する「市民運動会」のような形で、観客席にゴザを敷いて、昼には家族親戚でお弁当を囲み、周りには食べ物を売る屋台が並んで、まるでお祭りのように盛大に行われるようになりました。運動会は日本独特の、秋の風物詩のようなものになっていったのです。

昭和から平成へと変わり、時代の流れとともに運動会のあり方も多様化していきます。行われる種目も時代とともに変化し、かつての騎馬戦や棒倒しのような「戦い系」の種目は見られなくなり、「一等賞」のような順位による賞品の配布もほとんどなくなりました。現在は開催時期を春にする学校もあり、運動会のイメージは昔に比べてかなり変化したのかもしれませんが。

子どもたちを主役として、多くの大人が集まり、楽しむ運動会は、地域の生活の中で校庭が「はれ舞台」になる日です。三和小学校の運動会も、早朝の準備から終了後の片付けまでしていただいたPTA役員の方々と保護者ボランティアの皆様、応援いただいた観覧席の皆様、教育委員会、そして子どもたちと学校職員が一体となって創り上げることができた、素晴らしい運動会であったと思います。コロナウイルスの感染予防をしながら、まだまだ本来の形では実施できませんでしたが、子どもたちを中心に、学校と地域が一つになって行う行事として、これからも大切にしていきたいと考えます。

10月1日（土）は、子どもたちの一生懸命に頑張る姿と、まぶしい笑顔が溢れる、本当に素晴らしい運動会となりました。



## 5年生の野外活動

9月16日（金）～17日（土）で、5年生は奈良県宇陀郡曾爾村にある「国立曾爾青少年自然の家」で野外活動を行いました。家族とも離れ、普段の生活とは全く違った大自然の中で、なかまと一緒に貴重な時間を過ごすことができました。亀山の上に広がる青空も、キャンプファイヤーでの楽しい出来事も、みんなで眠った部屋も、忘れることのできない思い出になったことでしょう。ともに協力しあうこと、ルールやマナーを守ること、自然の尊さ……。多くの事を学ぶことができたのではないのでしょうか。



## あいさつ運動



生活・広報委員会の5.6年生が、9月12日（月）～16日（金）に取り組んだあいさつ運動。自分たちでつくったプリントや校内放送で、あいさつの大切さを全校に呼びかけました。一週間通してポスターを持って朝の校門に立ち、登校してくる人に元気よくあいさつをしてくれました。

あいさつは、人と理解しあい、人間関係を築くためのコミュニケーションの第一歩です。これから生きていく上で、いろんな場面で必要になるでしょう。大切にしたいと思っています。

## 皮むき体験

奈良県の森林面積は、28万4千haで総面積の約77%を森林が占めています。日本では生活環境の変化により、人工林の手入れが行き届かず、森の保水力などが下がり、水源としての役割や災害を防ぐ役割が果たせなくなっています。「植える・育てる・収穫する・使う」という未来につながる森林の持続的なサイクルを行っていくことが大切なことです。このようなことを学ぶ森林環境教育の一環として、4年生は9月22日（木）に檜（ひのき）の皮むき体験をおこないました。使った木は、本校の元校長である小西友吉先生からいただいた間伐材です。竹べらを使って皮をむいて、白木の状態に仕上げました。最初はみんな苦労していましたが、だんだんと慣れてくると、上手にむくことができていました。

